
宗教心理学的研究の展開(4)

—心理学に根ざし、社会寄与を目指すには—

日本心理学会第70回大会

ワークショップWS020

2006年11月3日

パーソナリティと宗教

—5因子モデル (FFM)から—

藤島 寛

(甲南女子大学人間科学部)

FFMの5因子

Extraversion	外向性 (E)
Agreeableness	調和性 (A)
Conscientiousness	誠実性 (C)
Neuroticism	神経症傾向 (N)
Openness	開放性 (O)

Costa & McCrae
(1992)

FFMと宗教性・霊性との関係

宗教性 (Religiosity)

E .13、**A .22**、C .18、N 無相関、O -.05

成熟した宗教と霊性 (Open, mature religion and spirituality)

E .16、A .18、C .16、N -.11、**O .24**

宗教的原理主義 (Religious Fundamentalism)

E .09、A .13、C .09、N -.12、**O -.14**

世俗的宗教 (Extrinsic religion)

E、A、C 無相関、**N .11**、O -.09

FFMからみた宗教・霊性次元

パーソナリティと宗教・霊性次元の相関関係

相関が弱い ($r < .30$)

Saroglou (2002) , Piedmont (2005)

FFMと宗教・霊性次元との関係 からの示唆 ①

FFMの5因子

生物学的基盤に基づいた因子

VS

状況的因子

宗教的コーピング

Pargament et al., 2000

傾性的第6因子

霊的超越性尺度

Piedmont (1999)

宗教的コーピング

COPE (Carver, et al, 1989)における
「宗教への志向 (Turning to Religion)」
尺度

E 無相関、A .16、C, N 無相関、O -.19

Watson & Hubbard

(1996)

FFMのN因子

情動焦点コーピングと正の相関

問題焦点コーピングと負の相関

Carver, Scheier, & Weintraub (1989), Scheier, Carver, & Bridges
(1994)

宗教的因子のFFMからの独立性

霊的超越性尺度
(spiritual transcendence)

FFMの5因子とジョイント因子分析
第6因子として抽出

Piedmont
(1999)

生物的基盤の検討

universalな因子、indigenousな因子

McCrae (1999), 藤島 (2006)

FFMと宗教・霊性次元との関係 からの示唆 ②

FFMの5因子 生物学的基盤に基づいた因子

性格的適応
phenotype
コーピング

人生の物語
integrative life stories
回心

宗教性を含む人生観尺度作成の試み (藤島, 2002, 2003)

Moberg (1984)

Subjective measures of spiritual well-being

金児暁嗣 (1991)

現代における非合理性の復権と家族の宗教観

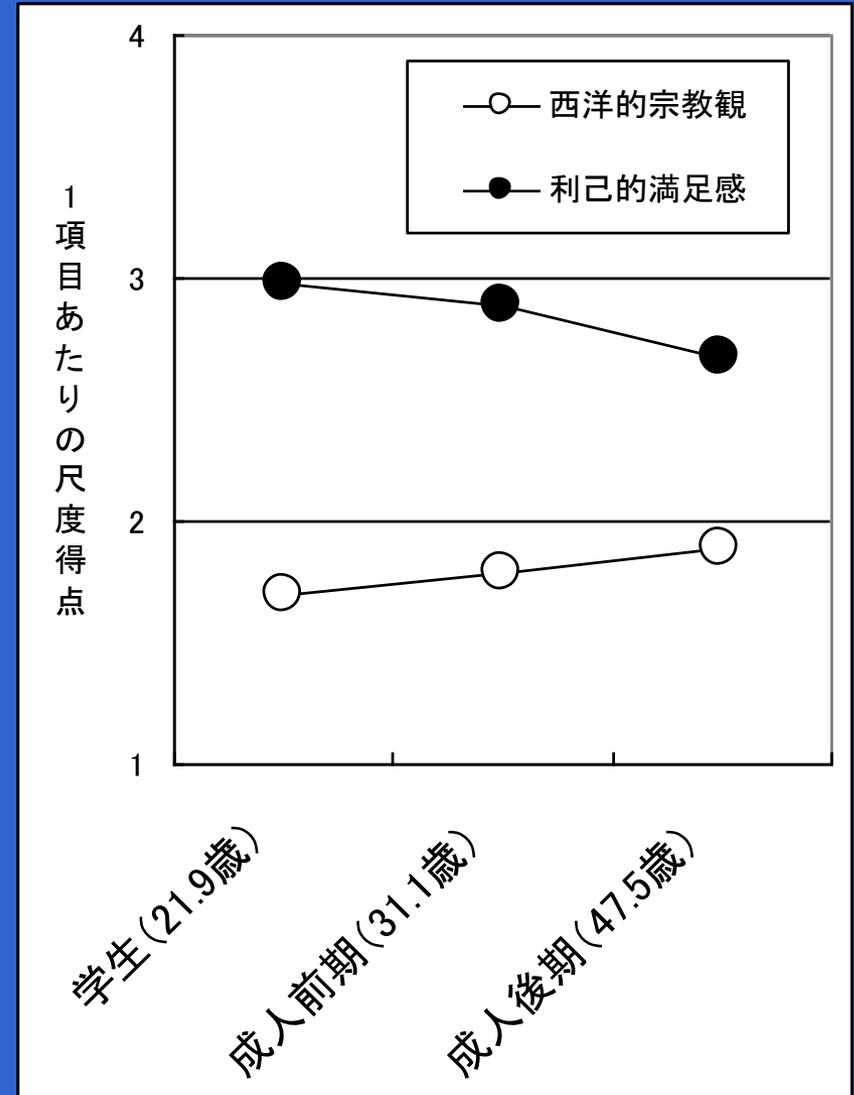
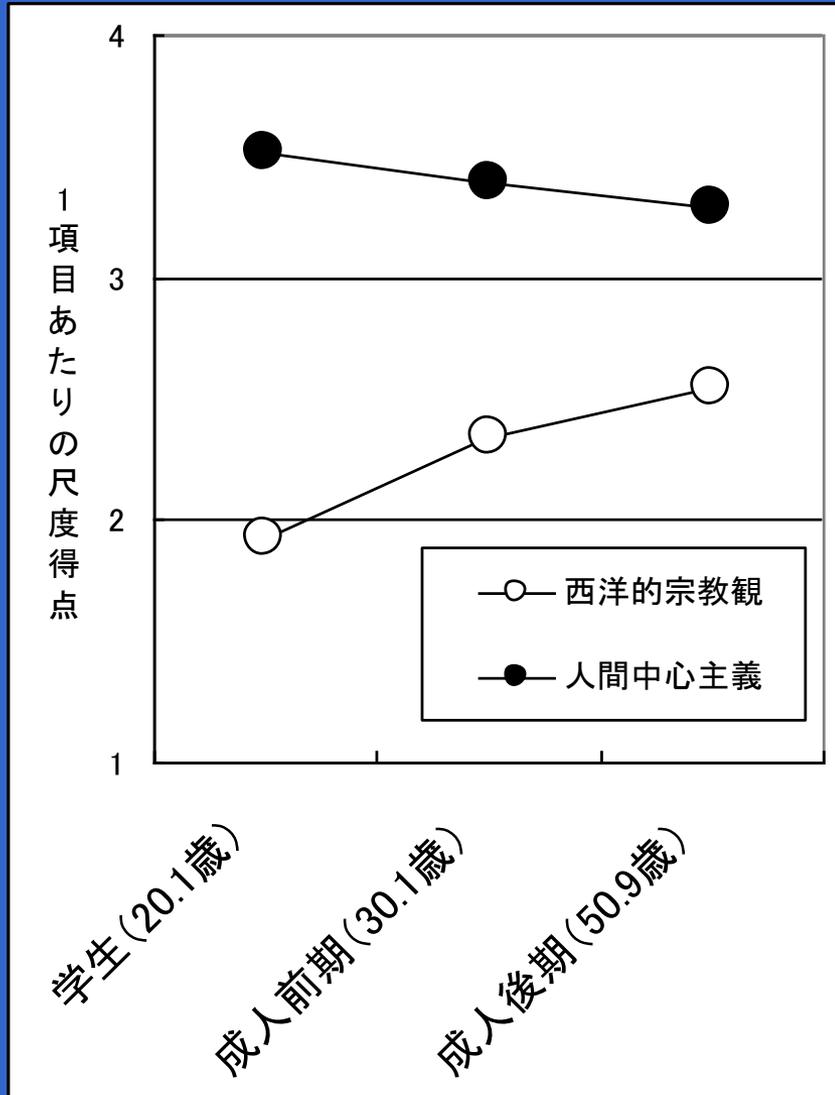
藤島寛 (2002, 2003)

6因子46項目

主観的幸福感・西洋的宗教観・人間中心主義

日本的信仰・利己的満足感・感覚的一体感

宗教性を含む人生観尺度作成の試み (藤島, 2002, 2003)



人生観尺度 (藤島, 2002, 2003)

表1. 人生観尺度 (16~80歳、男103名、女138名)

No.	下位因子	Factor1 幸福感	$\alpha = .8837$
3		1 私は充実している	
15		1 私は、自分のことを愛している	
6	x	私には、こころの幸せがある	
11		1 私の人生は大体自分の望んだものに近い	
35		1 私は自分の人生に満足している	
32		1 私は、人生をあまり楽しめない	
16	x	私には、打ち込めるものがある	
54		1 何かよいことが起こりそうな予感がよくする	
12		私には、自分のやったことを喜んでくれる人がいる	
19		1 私のこころは、以前は幸せであったが、今はそうではない	
47		1 人前で私はなかなか自由に振舞えない	
46		1 私の生活程度は素晴らしいほうだと思う	
60		1 私の人生は、解決できない悩みと不幸せで一杯である	
53		2 私には、喜び合える仲間がいる	
57	x	ホッとくつろげる	
36		1 私は、将来のことを考えると不安になる	
17		2 日頃、よく笑う	
29		2 私には、助けてくれる仲間がいる	
28		2 私は、人生はすばらしい体験であると感じる	
49		2 人生には発見がある	

人生観尺度 (藤島, 2002, 2003)

No.	Factor2 西洋的宗教観 $\alpha = .8535$
51	神とのつながりのおかげで、私は、孤独だとは感じないでいられる
50	私は、神の近くにいる時が最も満ちたりた気分になる
31	神とのつながりは、私の人生観におおいに寄与している
21	私のところは、神により平安である
43	よい生活を送るためには、宗教的信仰が必要である
22	私は、世界と一つになった感じになることがある
52	どんなに科学が進んでも、人間は信仰がなければ幸せになれない
61	私は、寝る前に感謝の気持ちがこみあげてくることがある

No.	Factor3 人間中心主義 $\alpha = 7653$
37	宗教で人間の難しい問題を解決しようとしても時間と労力の無駄である
39	宗教が人生の意味を明らかにしてくれることはない
26	私は、残りの人生を宗教とはできる限り離れて生きようと思う
34	信仰をもっていれば、死に直面しても安らぎの気持ちを持つことができる

No.	Factor4 日本的信仰 $\alpha = .7800$
27	神や仏をそまつにするとばちがあたる
8	私は、死後の供養をしないとたたりがあると思う
20	私は、死後の世界はあると思う
2	人は死んでも、繰り返し生まれ変わるものである
59	私は、昔からのしきたりや年中行事には抵抗を感じる

No.	Factor5 利己的満足感 $\alpha = .6256$
33	人生は勝たないと幸せになれない
7	自分の思う通りにいくと満足である
30	私は、自分の考えが人から評価されると嬉しい
45	お金が無いと幸せにはなれない
25	私は、他人が自分を理解してくれていると感じると幸せになる

No.	Factor6 感覚的一体感 $\alpha = .5580$
10	私は、周囲の人が幸せでないと、自分も幸せになれない
62	日の出を見ると、私はあらたまった気持ちになることがある
4	大自然に包まれると何か自分が変わる気がする
58	神社の境内にいると心が落ち着く